

# 生物研究

第 XIII 卷 第 3·4 号

1969

---

**THE LIFE STUDY**

Vol. XIII, Nos. 3-4

October 30, 1969

FUKUI, JAPAN

---

No. 5. 1969年8月19日, 9時頃フジガバチが prey を巣のそばに置き, 仮閉鎖の石や土を取り除いていた。Prey を巣に入れる方法は, 「狩人蜂」に記載されているように頭から入って, 中で向きを変えて巣穴の所に来て, prey を引き入れる方法ではなく, 腹の方から後ずさりして巣穴に入り, そのまま prey を引き入れた。Prey を引き入れて巣から出てくるまでに要した時間は約30秒である。同時に数個の巣穴を造るかどうかは No. 1, No. 2, No. 3. から考えてありえないように思われる。フジガバチの活動期間は6月中旬から8月までであろう。

## 参 考 文 献

常木勝次著 狩人蜂。1946 (pp. 53-62)。札幌。

## 氷の山のアナバチ科追加

## K. Tsuneki: Addition to the Sphecidae-Fauna of Mt. Hyonosen

今夏学生野外実習指導のため, 兵庫県氷の山を訪れ, 7月26日から30日まで付近一帯の山地を学生達と採集し, 毎夜同定会を開いて採集品の整理をした。学生の採品の中には案外の珍品があり, たとえばエゾコガシラアブ *Pterodontia ezoensis* Ouchi (故竹内博士によると北海道だけに産する稀種という) と思われるものがあつたり, 甲虫などにも同行の佐々治博士によると相当な獲物があつたようである。アナバチ科については, 先に本誌XIの3・4, p. 44 に佐々治博士の採品24種を記録したが, それに追加さるべき次の数種が得られた。

1. *Cerceris carinalis* Pérez (ヒメツチスガリ), ♀♂, 各数頭。
2. *Mellinus obscurus* Handlirsch (ハエトリバチ), 1♀。
3. *Tachysphex bengalensis japonicus* Iwata (ヌカダカバチ), ♀♂。
4. *Psen (Psen) affinis* Gussakovskij (タカネブセン), 1♂。
5. *Psenulus pallipes yamatonis* Tsuneki (ヤマトマエダテ), ♀♂。
6. *Ectemnius rubicola nipponis* Tsuneki (クララギングチ), ♀♂。
7. *Crossocerus (Ainocrabro) aino* (Tsuneki) (アイヌギングチ), 2♀。
8. *Crossocerus (Coelocrabro) barbipes* (Dahlbom) (ヒゲアシギングチ), ♀♂各数頭。

なお前報24種の中で今回採集できなかったものは Nos. 2, 14, 15 の3種だけで, その他は多少とも採集できたが, 特に Nos. 1, 4, 5, 6, 17, 22 は多産することが確認された。4, 6 は鉢高原西方の草原に多く, 5 はいたる所, 17, 22 は氷の山越の峠道に多かった。5, 6月ごろ, または7月はじめに行くともっと多くの種が得られるのではないかと思う。

ついでに蝶について一言しておく, 鉢高原付近一帯にウスイロヒョウモンモドキが多産する。このことは白水博士の日本の蝶に氷の山として記録されているが, 具体的には氷の山ではなく, 鉢伏山西方の草原地帯なのである。  
(常木勝次)

## 私 の 標 本 箱 か ら

1. *Dineura virididorsata* Retzius 1♀, 12. VII, 1966 羅臼岳 (北海道), 亀井採集。
2. *Apethymus kuri* Takeuchi 1♀, 10. X, 1966 イズミ山 (宮城県), 亀井採集。